

13 【愛知県新城農蚕学校】

愛知県新城農蚕学校

校歌

土井 晩翠 作詞

中田 章 作曲

鈴木真喜生 編曲

一、歴史に名高き戦場近く

産業豊かに地の利を占むる

新城今見る斯道の校舎

豊川しづかに其のもと流る

て

二、大地に起こりて雲井を凌ぐ

鳳来寺の山偉なる仰ぎ

学共はたまた近きに起り

み

高きにいたるを顧み思ふ

三、小さき生物小さき種粒

やどすや何等の微妙の力

四、自然の恵を此の身に占め

造化の巧を補ひ足さん

天職おのおの高きを感じ

科業に日に日に研磨の勇

五、人文人道わが世を照らす

光明逐ひつつ勉めてやます

青春盛りの歓喜に満ちて

東日本大震災からの復興の応援の意味も込めて、遠く愛知県から初めて参加させていただいてから、はや、4回目の参加となります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「新城農蚕学校」の「蚕」は、絹糸を紡ぎだす「かいこ」という虫を意味します。新城は、古く1千年以上前から、伊勢神宮に絹糸を献上してきた土地で、土井先生がこの校歌を作られた大正時代頃までは、「かいこ」から糸を作り出す養蚕が盛んでした。

しかし、時代は移り、産業のありようも変化してきました。養蚕学校自体、第二次大戦後には廃校となり、今や、同窓会も解散して10数年が過ぎました。養蚕学校も、その校歌も、語られ、歌われる機会が全く失われてしまいました。

そのような状況の中、この校歌の素晴らしさに気がついた地元の音楽家の協力を得て、さらに、土井晩翠先生を敬愛する皆さまの前で、2年に一度、世の中に聞かせる機会を持つことができます。大変ありがたく感じています。

作曲は、「春は名のための風の寒さや…」モーツァルトを思わせる芸術歌曲として名高い「早春賦」で名を残す中田章氏。

ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲の第1楽章のメロディーにも似た美感を持った「新城農蚕学校」校歌、是非ご鑑賞いただければ幸いです。